

## 令和2年度学位記授与式 学長式辞

愛媛大学長 大橋 裕一

いつのまにか陽の光が温かさを増し、例年よりも早く桜が満開を迎えようとしています。世界を苦しめるコロナ感染禍はまだ収束には至っておりませんが、ここ愛媛松山でも春を肌で感じるいい時候となってまいりました。

ご卒業おめでとうございます。皆さんに、心からのお祝いを申し上げます。

さて、本日の式典ですが、コロナ感染の影響を受け、規模を縮小しての開催となりました。まさに断腸の思いの中での決断ではありますが、これも関係者の皆さんのリスクを考慮しての判断です。ご理解のほど、よろしく願い申し上げます。

なお、ご来賓につきましても、通常どおりにご臨席を賜ることは叶いませんでした。ただ、高橋祐二校友会会長には、このような中をお越しいただいております。この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

この佳き日にあたり、ただいま、1、838名の皆さんに学位記を授与させていただきました。その多くは、実社会へと羽ばたかれることと思いますが、大学で培った専門知識と研究手法を生かし、それぞれの進路において大いに力を発揮してくださることを願っています。

また、373名の皆さんは大学院へと「進学」され、さらなる研鑽を積まれるとお聞きしています。真理の探求を通じて、「知の総合力」を一段と高められることを期待いたしております。

さらに、各研究科において所定の課程を修了し、審査に合格された皆さんには学位記を授与させていただきました。博士（はくし）の学位を取得された29名の皆さん、修士の学位を取得された398名の皆さん、まことにありがとうございます。修得された高度の専門知識を生かし、社会の発展に寄与されることを心より願っています。

その中には、40名の社会人学生に加え、22名の海外留学生の方々が含まれていますが、コロナ感染禍という厳しい環境の中で、無事、目標を達成された喜びにはひとしおのものがあることでしょう。試練を乗り越えての成果に心からの賛辞を贈りたいと思います。

本日、残念ながらご臨席いただけなかったご家族、そして関係の皆様方には大変申し訳ありませんでした。お子様の晴れのご卒業をお祝い申し上げますとともに、本学にこれまで頂戴いたしました温かいご支援に対しまして深く感謝申し上げます。

今回の挨拶を考えている時に興味ある本に出会いました。それは、生物学者の福岡伸一氏の「世界は分けてもわからない」という著作ですが、その中に「地図」をコンセプトとする大変面白い考え方が述べられていました。今日はこの福岡氏のお話をご紹介します。皆さんへ門出のメッセージを贈りたいと思います。

福岡氏によりますと、おおよそ世の中の人間の性向は、マップラバー（地図を愛する人）とマップヘイター（地図を嫌う人）に二分されるそうです。もう少し具体的に言うと、人間には、目的地に向かう上で地図を頼りに行動するマップラバー派と、地図などはいらずに、自分の勘と嗅覚のみで目指す場所にたどり着こうとするマップヘイター派の二つのタイプがあるということです。周りを見渡せば確かにそんな気がします。

別の表現をすれば、マップラバーというのは、事前の学習の中で知識、情報を蓄え、全体を俯瞰的に捉えるのが得意です。少し悪い言い方をすると、石橋を叩く、前例のないことはしないという保守的な行動様式に陥りがちです。

一方のマップヘイターは、地図や案内板などには頼らずに、自分の周りにある生きた情報を取捨選択しながら進みます。ある意味、出たところ勝負の現場主義者という感じでしょうか。無駄に歩き回る分、落とし穴に嵌まるリスクはありますが、逆に思いもかけない幸運に遭遇する可能性も秘めています。

これはおそらく人生の生き方とも相通ずるものがあるでしょう。

さて、マップラバー派とマップヘイター派ですが、はっきりと二つに分かれるものではありません。個々の人間にはおそらく両方の要素が共存していて、要素の比率によってマップラバー派になるか、マップヘイター派になるかが決まるのではないかとも思われます。したがって、個人の意識変革によりマップクリエイター派に変容していくことは可能です。実際、福岡氏も科学者として、マップラバー派からマップヘイター派への変身を試みられています。要は、マップラバー派はマップヘイター派のよいところを、マップヘイター派はマップラバー派のよいところを学び、修正すればいいのです。

まず、マップラバー派の人たちには、道草をすることをお薦めします。決めた時間に決めた道をストレートに進むのは止めて、少し時間に余裕を持って出発し、ジグザグにあちこちを歩いてみることです。時に寝転がって空を見上げるのもいいでしょうし、もと来た道に戻ってみるのもいいでしょう。いろいろな人、ものに出会い、多様な経験を積む中で、違った景色が見えてくるはずですよ。目的地に着くのにルートは一つである必要はないのです。

次に、マップヘイター派の人たちには、付近で一番高い場所に上り、自分の動いている現場を遠くから眺めてみるのがいいでしょう。そこからは、自分の立ち位置と自分を取り巻く状況が手に取るように把握できます。退屈かも知れませんが、毎日眺めていると、現場に居ただけでは分からない変化を察知できるようになり、進むべき方向性が自ずと見えてくるかも知れません。そもそも、新たな発見はこうした日常の繰り返し、ルーチン作業の中から生まれることが多いのです。

このように、マップラバーとマップヘイターにはそれぞれにいいところ、悪いところがありますが、「もしも両者のいい面を兼ね備えることができれば」と考えるのは私だけではないと思います。両者を足し2で割って浮かんでくるのは、物事の全体を総合的に把握しながら、あらゆる情報を生かして未知の領域を切り拓き、新たなマップ、地図

を描き出すことができる人材です。これは「マップクリエイター」とでも命名すべきでしょうか。

「遠くまで見渡せる広い視野を持ち、共創の精神のもと、新たな価値創造のために汗をかくことができる」、こうした人材が今、求められています。さあ皆さん、あなたはマップラバー派でしょうか、それともマップヘイター派でしょうか。それともマップクリエイター派を目指しますか？

未曾有（みぞう）のコロナ禍の中、皆さんの勉学には大変な支障があったことと拝察いたします。これを乗り越えられ、見事に学業を修められたことに最大限の敬意を表したいと思います。ちょうど「弥次郎兵衛」の振り子のように、苦難の後には必ず幸せがやってきます。明日を信じて歩を前に進めようではありませんか。

最後になりましたが、本日卒業されていく皆さんが、それぞれの分野で素晴らしい活躍をされることを心より期待し、私からの式辞といたします。今一度、ご卒業、本当におめでとうございます！